



没後五十周年

第五十回
松村記念例会開催

断酒会の生みの親である、故松村春繁先生を偲んで毎年一月に「松村記念例会」を開催している。松村先生の没後五十年となる今回は、一月二十二日（水）に開かれ、松村先生の功績を振り返りながら会員家族がそれぞれ体験談を発表した。

例会の冒頭、武内晴夫会長が松村先生の足跡について「松村春繁氏は、昭和三十三年に高知県断酒新生会を結成され、三十八年十一月には土電会館で「断酒新生会」創立五周年と同時に、

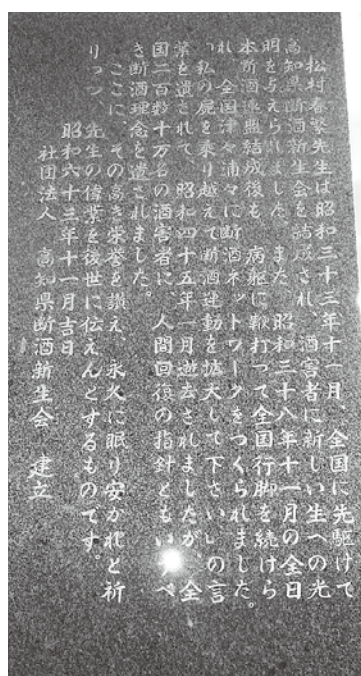
断酒高知

4月号

発行所
高知県断酒新生会
高知市若松町 215
TEL(088)882-2586
発行人 武内 晴夫
編集人 橋本 和明

東京断酒新生会の大野夫妻を招き、「全日本断酒連盟」結成大会を行いました。さらに昭和四十年九月には全国で初めて「断酒学校」を開催いたしました。

また、全国各地を飛び回り各地の断酒会結成に尽力されましたが、昭和四十五年一月三十日惜しまれながら亡くされました。



断酒の碑に刻まれた松村先生の功績(南国市吾岡山)

氏を偲んで、お亡くなりになった翌年に「松村記念例会」が始まり、今回五十回目を迎えました。」と紹介した。

この後、会員家族の体験発表と松村先生が出演した記録映像「ある人生」を鑑賞、また会員の年度表彰も行なった。

(嶺北支部 橋本和明)



体験発表

断酒人生を顧みて

有澤 土生^{くにお}
(安芸支部)

少年時代は戦争中で、高学年になると、教師から「男の子は國のために兵隊に行くべし」と教育され、その気になって十四才で志願し、翌年十月に航空兵として入隊する予定になっていたが、八月に終戦となりほっとした。

当時、世の中は荒廃し激しく衣食住も乏しく、それになんの娯楽も無い困難な時期で、酒、タバコまでが配給制度になっていた。そんな厳しい状況の中、先輩達が次々と復員してくるようになった。親族や旧友による歓迎の酒盛りが各所で催されるようになり、何時しか一緒に行

動するようになっていた。二十三年、十八才で郵便局に採用となったが、その頃はもう一人前の酒飲みになっていた。

それから三十才で郵便局長に任命されたが、その当時は労働組合の天下で、労使がギクシャクしたストライキの最中で、その風当たりも強く業務も儘ならない状態で、毎日追い詰められどうにもならなくなつて、深い精神的ストレスに苛まれ、勤務中でも酒で憂さを晴らすようになり、それが次第に常習化し、局長会、職場や家族までに心配や迷惑をかけるようになり、とうとう三十九才で入院治療を余儀なくされた。

当初の入院ではアルコール性肝障害と診断されたが、二回、三回と進行し最後は慢性アルコール中毒症と診断され、長期入院することとなった。三回目入院時には上層部の指示なのか、通信診療所の計らいか、当院のケースワーカーの態度も優

しく親切丁寧にサポートして頂き、その上、院内断酒例会まで開催することになり、新生会の会員が数人参加して週一回例会を開催することになった。

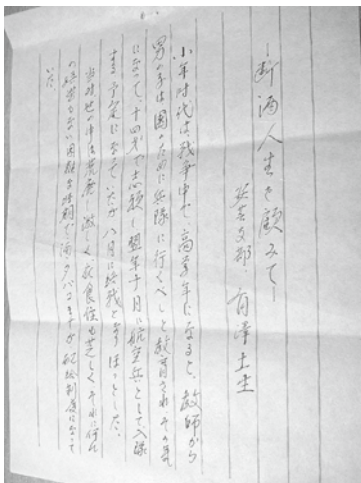
その甲斐もあつてか、日増しに飲酒欲求もなくなり、段々と断酒意欲に変化し、人がやれているのに自分がやれない筈は無い、三度目の正直なるかと断酒を誓い、退院することとし、五年三月、四十五才で入会することになった。

入会後は断酒例会を最優先に、本部・院内・各支部と片道五十キロあまりを毎日奔走した。

それから断酒十年とになった時、断酒も一応安定したし、職場の業務成績も回復したので、これを契機に退職して過去お世話になった方々に恩返しをして行こうと決意し、退職願を提出した。ところ

が、局長会の面々から、「今退職すると不利益になるので、少し延期しては」とアドバイスがあり、又、上層部からは若年退職は好ましくないとストップが掛かり、退職の理由を詳細に報告するよう求められ、過去の飲酒状況等を作文にして提出すると、漸く承認されて一段落した。

爾来、断酒一路に断酒幸福を糧に一層精進し、今年断酒四十五年と九十才を迎えることになりました。これも偏に全国同志の皆様方のご指導とご協力の賜物であり、心より感謝いたしております。



令和元年度主な行事の記録

高校アルコール教室

10月30日(水) 県立山田高等学校・12月10日(火) 県立高知南高等学校・1月16日(木) 県立嶺北高等学校

未成年への飲酒防止教育として各学校で行なわれたアルコール教室で、新生会会員が酒害体験を語り、アルコールの危険性や依存症についての理解を深めてもらった。

飲酒運転根絶キャンペーン

内閣府主催、アルコール問題啓発週間の11月10日(日)、帯屋町アーケードでパレード。「ストップ・ザ飲酒運転」のチラシとティッシュペーパーを配布して啓発活動に協力した。



本山町産業文化祭で啓発活動

11月17日(日)に行なわれた本山町産業文化祭に参加。七十名以上の方がアルコールパッチテストを受け、アルコール依存症についての関心を高めてもらうことができた。



第6回アデクションフォーラム高知

12月15日(日)、高知県立大学に於いて開催。「子供の心と依存症」をテーマに、三光病院院長、海野順先生他の講演、医療・行政の依存症対策発表、アルコール・薬物、ギャンブルなど様々な依存症者の自助グループによる活動発表(家族会の活動報告、会員の体験発表を担当)。



酒なし望年会

12月8日(日)、南国市内のホテルにて開催。午前は県内各断酒会の会員家族の体験発表、昼食をはさみ、午後は参加者有志による、カラオケ、パフォーマンなど余興を楽しみながら親睦を深めた。医療行政関係者にも、多数で参加いただいた。



レクリエーション「イチゴ狩り」

2月16日(日) 西島園芸団地

前回大好評だったイチゴ狩り、リクエストにより今年も行なった。暖冬の影響なのか、大粒でとても甘く美味しいイチゴを食べ放題。昼食不要なほど堪能して皆大満足だった。



私の心に突き刺さった一言

その一言で断酒が始まったり、生き方が変わったり。
そんな一言を集めてみました。

武内 晴夫（香南支部）

私の心に突き刺さった一言
「これから先のことも、今後をしないではいけなから。」
何度も再飲酒をして周りの方に迷惑を掛けてきた。再飲酒をするたびに、悪い状況ばかり想像し、そのプレッシャーから逃れるためにまた酒を飲むという悪循環を繰り返していた。そんな折先輩から「今、これから先の事を考えても何も進展はない。今日一日、今日一日と断酒に取り組むことです。」と言われた言葉です。

二神 啓通（長浜支部）

私が所属する長浜支部は、松村春繁氏を直接知る大先輩のNさんと、ご主人が亡くなった後もずっと出席されている家族Iさんのお二人で長年運営してこ

られました。私は久々の新支部員でした。入会して1年半ほど経った頃Nさんが病気になられ、他に人がいなかったため私が支部運営を引き継ぎました。Iさんにはその連絡が行っておらず、私が初めて設営した例会場へ来たIさんに「Nさんはどうしたぞね？」と尋ねられて事情を説明すると、Iさんは「二人で44年もやってきたに、これからどうしたらえいろう」と悲鳴のような声で言われました。当時私は46歳でした。私がヨチヨチ歩きの頃からこの支部はあるんだ、そしてNさんとIさんはずっと支部を守ってきたんだと、継続努力の重さに仰天しました。以来11年。Nさんから引き継いだ支部の火を今後も守り続けま

西内 雅信（香南支部）

「いややー！神戸戻らへん！お父さんと共に居る、いややー！」
平成十三年七月二十四日、下司病院で、当時六歳の娘が母親に言い放った言葉。あの娘が、渾身の力を振り絞り、泣きながら必死に母親に抵抗した時。私は先程打たれた麻酔が効いてきて、娘の頭をなでる事しかできなかった。「大丈夫だよ。」と…。

尾崎 孝次郎（高吾支部）

先輩の言葉
「間に合ったのう」「エンジンかったのう」

崎岡 誠司（長浜支部）

先輩会員さんが研修会に行く車で、「断酒会に入って一番良かったことは何ですか？」と伺った際に、「納得のいく人生をくれた、ということですよ。」とおっしゃった。シラフで生きていると、人生の様々の場面で

直面する決断や選択、家族や仕事の選択の後悔が無い。今、改めて納得しています。

岡崎 昂^{きめ}（山田支部・家族）

私は今まで十年以上息子の酒害に従い、全身針で刺されるような痛みを経験してきました。その中で最近、これだと納得した言葉があります。それは会員のNさんが先輩のKさんから聞いてはっとしたという、「アルコール依存症は人間として酒をのんではならない」という一言です。この言葉は断酒の究極を突いていると思います。この意味が分らず、断酒の決心がつかなければ、家族はいつまでも地獄です。

橋本 和明（嶺北支部）

初めて出た断酒会の帰り際、先輩が私の肩をポンと叩いて一言、「また来週な！」
以来、酒が止まっています。

令和元年度 四国ブロック春季学習会並びに 第6回 四国ブロック家族一日研修会開催

令和二年二月二十三日(日)、高知どぼさんセンターで四国ブロック学習会・家族研修会が行なわれた。四国四県の各断酒会から一〇〇名を超える会員・家族が参加し、「断酒会の受入体制の整備・酒害相談」について、特にSBI RTS(医療から直接断酒会へ酒害者を紹介するシステム)の取組みについて学習した。

会は定刻10時にスタート、四国ブロック長、武内晴夫高知県断酒新生会会長の開会の挨拶に続き、今年一月に行なわれた、全断連セミナーの内容報告が行なわれた。続いてSBI RTSが実際にどう行なわれていくのか、会員の演技によるデモンストレーションがあり、断酒会の受入態勢を整えていくための参考になった。さらに「断酒会の受入体制の整備・酒害相談について」(公社)全日本断酒連盟副理事長・教宣部長、安永健吾氏が講義した。これは「アルコール健康障

害対策基本法」の推進計画策定が進む中、SBI RTSの効果が大きく、次々と各地で啓発活動が行っていること、従って、医療からの要請に応えるために私たちが受入態勢を整えるための提案がなされた。分科会では、会員と家族がそれぞれ別れて多くの体験談が発表され、有意義な学習会であった。

(嶺北支部 橋本和明)



第6回 四国ブロック 家族一日研修会について

高知県断酒新生会家族会 島内 理恵

令和2年2月23日、高知県ちばさんセンターで第6回四国ブロック家族一日研修会が開催されました。四国4県から50名近い家族が

集まり、たつぷりと体験を語りあうことができました。

私はことしは高知県断酒新生会家族会の世話役をしています。司会をしなくてはなりません。実は昨年まで(娘の受験等のため)この研修会は欠席していました。どんな風にするのかイメージがつか

めず最初はおろおろするばかり。会場の準備、実際の進行など、司会を助けて下さった武内さんをはじめ他の家族のみなさんに何から何までお世話になりました。本当にどうもありがとうございました。

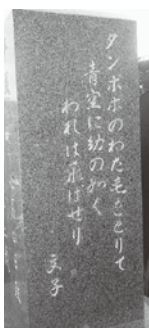
研修会は最初から最後まで体験発表です。たくさんの方から今までの道のりやお気持ちを聞くことができました。この家族研修会は、「家族のみ」ですと開催されてきています。この「安全な場所」でこそ、ようやく外に出せる思いがある。心の底から体験を語り合い、共感・共有し、それぞれが回復に向かうことができるのだと感じました。

まだ、本人が断酒会につながっていない、またはつながっているけど断酒が継続しない、そんな方も何

名かいらつしやいました。家族が先に幸せになれると言ってもなかなかそうはいかない、ご本人の断酒継続は、家族の幸せの重要なファクターです。断酒会さまご本人の皆さま一層のご活躍にこれからも期待したいと感じました。

今回の研修会で家族の思いのこもった体験談のシャワーを浴びて、気持ちがあすきりとなりました。家族会は家族の自助グループとして、家族自身の心の回復のために役割を果たしていると感じました。4月には香川で四国ブロック大会、5月には我が高知で松村断酒学校があります。また他県や全国からいらつしやるたくさんの方の家族のみなさまとお会いできるのを、とても楽しみにしています。

「たんぽぽのわた毛をとって
青空に幼の如く
われは飛ばせり」



松村文字さん(松村先生夫人)の墓石に刻まれた詩(南国市吾岡山)

ご本人や家族の方でお酒に

悩んでいる方はいませんか？

※ 高知県断酒新生会例会案内（ご気軽にど参加ください。）

毎月開催日	時 間	場 所
第一 日曜日	十九時～二十時四十五分	香美市中央公民館
第四 日曜日	右同じ	佐川町総合文化センター
第二・四・五 火曜日	十九時～二十一時	県断酒新生会事務所 （高知市若松町二二五）
第一 水曜日	右同じ	右に同じ
第二・三・四 水曜日	十九時～二十時四十五分	高知市東部健康福祉センター （但し、祝日の場合は県断酒新生会事務所）
第一・二・三・四・五 木曜日	十三時～十五時 （昼間例会・相談）	県断酒新生会事務所 （高知市若松町二二五）
第三 金曜日	十九時～二十時四十五分	高知市瀬戸西町公民館
第一 土曜日	休会中	安芸市総合社会福祉センター
第二 土曜日	十九時～二十時四十五分	香南市のいちふれあいセンター
第三 土曜日	右同じ	南国市野田公民館
第四 土曜日	右同じ	土佐町農村環境改善センター

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から 「第76回松村断酒学校」開催中止のご案内

令和2年5月9日（土）より11日（月）の日程で開催を予定しておりましたが、「第76回松村断酒学校」ですが、新型コロナウイルスの感染拡大が大きな社会問題となっている現状を鑑み、今回の開催を中止させていただきます。皆様に大変ご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げますとともに、来年度の開催へ向けて、変わらず皆様のご指導とご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

編集後記

新型コロナウイルスの影響は想像以上です。幸い私たちの例会は開くことが出来ていますが、残念ながら今年の松村断酒学校は中止となりました。なんとか早く収まって、今後の研修会などを皆様と再開できますことを、心からお祈りしています。

♪いつの日も酒に負けるもんか！ コロナにだって負けるもんか！

橋本和明（嶺北支部）

